

「2015 年の新年を迎えて」



日本複合・防音床材工業会会長
永大産業株式会社
代表取締役社長 大道 正人



明けまして おめでとうございます。

旧年中は、多大なご支援、ご厚情を賜り誠にありがとうございました。本年も引き続き、宜しく願い申し上げます。

昨年を振り返りますと、日本経済は、雇用・所得環境の改善や資産効果の顕在化を背景に緩やかな回復が期待されましたが、消費税率引き上げの影響からの回復ペースは想定以上に緩慢なものとなりました。

一方、海外に目を向けますと、米国経済はリーマンショック以降段階的に実施してきた量的緩和の終了を決定するなど回復基調で推移しました。しかしながら、欧州経済が回復の勢いを欠いていることや新興国経済の成長鈍化、さらには地政学的リスクの高まりなどによる海外経済の下振れが懸念されており、先行きには不透明感が残りました。

住宅業界では、消費増税前の駆け込み需要の反動減に加え、建設資材や人件費の高騰が建設コストを押し上げる厳しい環境が続きました。今年 10 月に予定されていた消費税率 10% への引き上げは延期となりましたが、当面は建設コストが高止まりする厳しい状況が続くと見ております。さらに、中長期的な見通しにおきましても、少子高齢化のさらなる進行や世帯数のピークアウトといったわが国が抱える構造的な問題は解決されておらず、需要の大幅な回復は困難と考えております。

さて、「日本複合床材工業会」は 1971 年に、「日本防音床材工業会」は 1990 年に各々設立され、それぞれ複合フローリング、防音直張りフローリングの普及のための活動を続けてきました。このたび、新たなステージでの木質フローリングのさらなる普及や技術革新のための工業会を目指して、昨年 10 月に両工業会が合併し、新たに「日本複合・防音床材工業会」を発足いたしました。

今後は、多様化するユーザー様への情報発信、リフォーム・

リノベーションなどのストック需要への対応、新たな製品開発、施工技術の研究、さらには行政などに対してより敏速に対応すべく取り組んでまいります。また、国産材合板の輸出奨励や 2020 年の木材自給率 50% を目標にした森林・林業再生プランが進められているなか、私ども工業会としても国の施策に沿い、国産材を木質フローリングの材料としてより多く取り入れるための技術革新を進めることにより社会貢献に努めてまいります。

日本複合・防音床材工業会では、従来の会員様に加えて、今年 4 月以降、多数の法人企業様の新規入会を予定しております。これに伴い、昨年 10 月より従来の「副資材部会」、「関東・関西例会」、「施工部会」を統合した「資材流通委員会」を立ち上げました。本委員会では木質複合フローリングの「提供」、「施工」、「使用」の各場面における情報の発信、課題の収集と解決策の検討に取り組んでまいります。また、技術委員会と広報委員会では工業会ホームページおよび、発刊物のリニューアル作業を開始いたしました。今後もより一層幅広い情報をユーザー様に発信できるよう、引き続きリニューアル作業に取り組んでまいります。

さらに工業会ホームページに、防音直張りフローリングの「床鳴り」に関して、わかりやすく発生要因を掲載し、ユーザー様に製品の特性をご理解いただけるようにいたしました。また防音直張りフローリングの「リフォーム Q & A」に関して、内容の充実をはかりました。

最後になりましたが、新たに生まれ変わったこの「日本複合・防音床材工業会」に対して、工業会会員の皆様並びに「産・官・学」関係者の方々のより一層のご支援をお願いいたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

本年も変わらぬお引き立ての程よろしく願い申し上げます。皆様のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。